



株式会社 明治は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続可能な食料システム、特に「質(栄養)・量(供給)の両面にわたる食料安全保障」「食料消費の持続可能性」「環境に調和した農業の推進」の実現に貢献するため、「明治グループサステナビリティ2026ビジョン」及び明治グループ長期環境ビジョン「Meiji Green Engagement for 2050」に基づき、将来にわたって自然との共生を目指して、持続可能な食料システム構築に資する取り組みを多様なステークホルダーと連携し、積極的に推進して参ります。

【具体的な取組・目標】

- ① 先天性代謝異常症の赤ちゃんのための「特殊ミルク」、高齢者の栄養ニーズに応える流動食・介護食などの商品の提供により食料安全保障に貢献します。
- ② 持続可能な食を支える食育の理解・浸透に向けて、全国の小中学校などで明治らしい食育活動を実施し、2021年度から2023年度までの3年間で参加者数延べ70万人を達成します。
- ③ カカオ農家の支援活動であるメイジ・カカオ・サポートをガーナやブラジルなど9か国で展開し、2026年度までにサステナブルカカオ豆の調達比率100%を目指します。
- ④ 持続可能な原材料調達のために、RSPO認証パーム油やFSC認証紙などの環境配慮紙への切り替えを推進し、2023年度までにグローバルでいずれも100%切り替えます。
- ⑤ 2050年までにカーボンニュートラル実現に向けて、省エネ活動や再生可能エネルギーの活用強化などにより、2030年度までにCO₂排出量を2015年度比40%以上削減します。
- ⑥ プラスチック容器包装のリデュース推進により、2030年度までにプラスチック使用量を2017年度比25%以上削減します。また、バイオマスプラスチックなどの使用も拡大します。

【関連情報】 明治グループサステナビリティ2026ビジョン: <https://www.meiji.com/sustainability/stance/vision-creation/>
Meiji Green Engagement for 2050: <https://www.meiji.com/sustainability/stance/environment-vision/>



アクショントラック	具体的な取り組み
<p>1. 質(栄養)・量(供給)両面にわたる食料安全保障</p>	<p>【食料の安定確保支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国フードバンク推進協議会加盟のフードバンク団体(約 40 団体)を中心に年 3~4 回菓子・食品を寄贈。 ■全国乳児福祉協議会を通じて全国の乳児院(約 140 施設)に年 2 回乳児用ミルクを寄贈。 <p>【乳幼児、授乳婦、若年女子、高齢者の栄養ニーズへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■先天性代謝異常症により母乳や市販の乳児用ミルクが飲めない赤ちゃんの為に「特殊ミルク」を製造し、無償で提供。 ■お客様相談センター内に設置の「赤ちゃん相談室」では、赤ちゃんと母親の栄養や育児についての相談を受け付け、豊富な情報と経験を活かして対応。HP でも広く育児サポートに関する情報を発信。 ■母親が病気の時や外出時の授乳、災害時の備蓄用としても利用できる乳児用液体ミルクの提供。 ■ベトナムにおける女子労働者の低栄養問題の解決に向けて、栄養改善セミナーによる普及活動や栄養強化ミルクの提供により女子労働者の栄養改善に貢献。 ■主に高齢者を対象にバランスの良い栄養補給や特別に栄養設計された流動食・介護食などを提供。HP でも広く栄養ケアに関する情報を発信。
<p>2. 食料消費の持続可能性</p>	<p>【商品面での環境配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■食品ロス削減に向けて、需給予測の精度向上、賞味期限の延長、年月表示化の推進、納品期限緩和など取引慣行の適正化促進、停滞在庫品や災害備蓄品のフードバンク団体への寄贈などに取り組み、2025 年度までに国内の製品廃棄量を 2016 年度比 50%以上の削減を目標とする。 ■工場で発生する動植物性残渣は、飼料化、肥料化による再生利用やメタン発酵によるエネルギー利用を推進。 ■プラスチック資源循環では、容器包装のリデュース(他の素材への転換、軽量化など)を優先して取り組み、環境負荷の少ないバイオマスプラスチックや再生プラスチックの使用拡大も推進。2030 年度までに国内の容器包装のプラスチック使用量を 2017 年度比 25%以上の削減を目指す。

アクショントラック	具体的な取り組み
	<p>【健康な食生活、持続可能な消費への貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小学生・中学生向けの出前授業などの食育活動を通じて、「食の大切さ、楽しさ」「食のバランス」「食品ロスの削減」などをテーマに持続可能な食を支える食育の理解を促進。2021年度から2023年度までの3年間で参加者数延べ70万人を目指す。 ■健康志向商品(乳酸菌やカカオなど素材の持つ健康機能を活かした商品、腸内フローラ改善など健康ニーズに対応した商品など)や付加価値型栄養商品(栄養研究と栄養設計技術を活かした栄養をバランス良く摂取できる商品など)の提供によりお客様の健康・栄養課題を解決し、健康な食生活に貢献。2023年度までにこれら商品群の売上を2020年度比10%以上の伸長を目標とする。 ■環境負荷を低減した飼料や牛にやさしい環境での飼育に配慮した有機酪農家の生乳を原料としたオーガニック牛乳をお客様に提供することで、持続性を重視した牛乳の新しい価値を提案し、オーガニック需要を開拓。 ■お客様に対して企業の環境や社会に配慮した取り組みやその背景にある社会課題の解決について普及・啓発を図り、認知・理解して頂くことでエンカル消費を促進する。
<p>3. 環境に調和した農業の推進</p>	<p>【企業活動に伴う環境負荷の低減、地域生態系の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2050年までにカーボンニュートラル実現に向けて、生産・物流工程での省エネ活動や再生可能エネルギーの活用強化(太陽光発電設備の設置拡大、再エネ由来電力の利用)により2030年度までにグローバルでのCO₂排出量(Scope1、2)を2015年度比40%以上の削減を目指す。2021年度にCO₂排出削減の動機付けを目的にインターナルカーボンプライシングを導入予定。 ■2030年度までに国内生産系拠点において冷蔵・冷凍設備などで使用している特定フロン全廃を目指して、特定フロンから自然冷媒または代替フロンへの転換を推進。 ■工場での水使用量の削減、地域社会に配慮した排水の水質管理や化学物質の適正管理などに取り組み、2030年度までにグローバルでの水使用量(売上高原単位)を2017年度比20%以上の削減を目指す。 ■物流工程でのパレットやクレートなどプラスチック製器具のリユース・リサイクルによる有効利用の推進。 ■生産系事業所では、地域社会と連携して植樹、森林保全、河川・海岸清掃などの生物多様性保全活動に取り組み、2023年度までに自社拠点で100%実施を目指す。

アクショントラック	具体的な取り組み
	<p>■TCFD 提言に沿ったシナリオ分析によりサプライチェーン全体での気候変動による中長期的なリスクと機会を評価し、対応策を立案、今後の経営戦略に反映。</p> <p>【持続可能な調達活動】</p> <p>■人権・環境に配慮した原材料調達に向けて、RSPO 認証パーム油や環境配慮紙(FSC 認証紙、古紙など)への切り替えを推進し、2023 年度までにいずれもグローバルで 100%切り替えを目指す。</p> <p>■ガーナ産カカオ豆について“森林破壊抑制”“児童労働抑制”に関するサステナブルプログラム付きカカオ豆を調達し、2026 年度までにサステナブルカカオ豆(農家支援を実施した地域で生産されたカカオ豆)の調達比率 100%を目指す。</p> <p>■メイジ・カカオ・サポート(MCS)では、従業員がガーナやブラジルなど 9 か国のカカオ生産地を訪問し、カカオ農家に対する農法支援とカカオ生産地域の住民に対する生活支援(井戸の整備、学校備品の寄贈など)を実施。農法支援では、カカオの発酵法の指導、収穫量を増やすための栽培方法の指導、苗木の配布などを実施しており、カカオの生産性向上を図ることで新たな森林破壊の防止とカカオ農家の収入確保に貢献。</p> <p>■2017 年からカカオ・サプライチェーンにおける森林破壊を終わらせて、森林の保護と回復の促進を目的とした Cocoa & Forests Initiatives(CFI)に加盟し、森林の保護と回復、カカオ農家の生産性および生活水準の向上などに取り組んでいる。</p> <p>■ブラジルにおいて現地の農協と協働して、「森をつくる農業」と呼ばれるアグロフォレストリー農法(アサイーやコショウなど多種の農林産物を共生させながら栽培する農法)でカカオ豆生産を支援し、森林の再生により CO₂ 吸収量向上に貢献。</p> <p>■酪農業の生産現場の作業性を向上させて農場マネジメントをサポートする独自の生産者経営支援活動である MDA (Meiji Daily Advisory)を一部の酪農家を対象に実施。この活動を通じて、生乳の生産性向上を図ることで酪農家の収入確保に貢献。</p>
4. 農村地域の収入確保	<p>■メイジ・カカオ・サポートでのカカオ農家に対する農法支援によりカカオ農家の収入確保に貢献。</p> <p>■生産者経営支援活動 MDA により生乳の生産性向上を図ることで、酪農家の収入確保に貢献。</p>